

再生医療等に用いる細胞に関連する研究を記載した書類

免疫細胞療法に関してNK細胞は古くから研究が進められ、NK細胞の機能低下ががんの発症率と相関があることが示唆されている。また、健常人と比較して腫瘍細胞傷害活性が低下していることが確認されており、NK細胞を選択的に活性化増殖させる培養法が検討され、IL2に加えてTNF α 等の添加因子を加えることによってNK細胞の活性化増殖が増強されることも確認されている。免疫細胞治療はNK細胞以外に活性化リンパ球、樹状細胞と組み合わせで用いられたり単独で用いられたり様々な方法で各医療機関において行われている。実際に日本国内で数百のクリニックで行われており、日本においては2004年から2011年の間に5000例以上の症例を行ったとの報告もある。

※参考文献

JSRM/Vol18 No. 3, 2012; P205

Biotherapy 19 (4) : 317-324, July, 2005

平成24年度 中小企業支援調査（再生医療の実用化・産業化に係る調査事務等）報告書